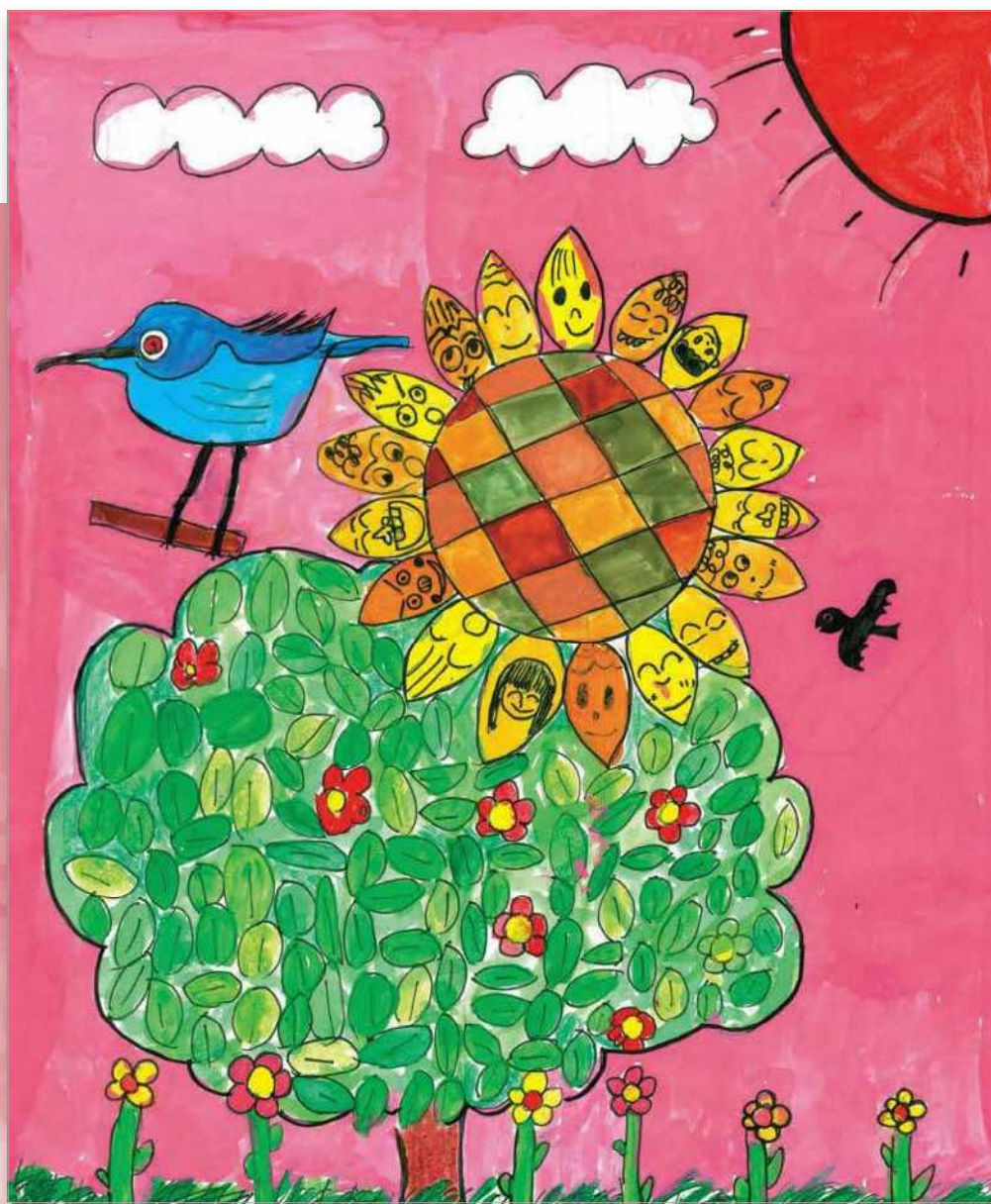


基本構想

①まちの未来像 ②人口と土地利用 ③まちづくりの理念 ④めざすまちの姿



栄小学校 4年
鈴木 菜花さん

ひまわりをいっぱい咲かせて、花びらにたくさんの人の顔を描きました。

第2章 基本構想

(1) まちの未来像

本市のまちの未来像を、次のとおり定めます。

みんなでつなぐ しあわせのまち とよあけ

女性も男性も、障がいのある方も、外国人も、
子どもからお年寄りまで、誰もが輝き、
まちづくりの主体者として活躍できるまちをめざします。

「今」を創ること、それは「未来」へとつながっていきます。
今を生きる私たちが、支え合い、手を取り合って
「しあわせのまち」をつくり、
未来の子どもたちへとつないでいきます。

誰もがそれぞれの「しあわせ」を実感でき、
しあわせ溢れるまちをめざします。



(2) 人口と土地利用

将来人口

本市における人口は、昭和35年から昭和55年まで急激に増加し、それ以降は緩やかな増加傾向にあります。平成22年の国勢調査における本市総人口は69,745人で、平成17年から1,460人増加しています。

全国的に急激な人口減少が進行する中、国立社会保障・人口問題研究所によれば本市も令和22年には60,000人程度まで減少すると推計されています。これに対し本市は、特に30代から40代の人口流出を防ぎ、人口増加に全力をあげて取り組むことで、令和7年度における人口を71,000人と想定します。

土地利用の見通し

本市は名古屋市に隣接し、伊勢湾岸自動車道、名鉄名古屋本線などの広域交通幹線の要衝となる優れた立地条件にあり、令和9年度に予定されているリニア中央新幹線開業により、東京までの所要時間は大幅に短縮されます。また、桶狭間古戦場などの歴史的な史跡や、水と緑の良好な自然環境にも恵まれています。

人口減少時代を生き抜く「持続可能な都市」となるため、このような特長を活かした計画的かつ有効な土地利用を図ります。将来の土地利用を「居住ゾーン」「田園居住ゾーン」「産業ゾーン」「農地・緑地ゾーン」の4つに区分し、発展的かつ自然と共存する安全で快適な都市をめざします。

(3) まちづくりの理念

市民アンケートで、多くの市民が重要と回答した7つの理念を、本市がめざすまちづくりの理念としました。



安 心：心配や不安がなく、明るく暮らせるまち

快 適：きれいで、心地よく、誰もが住みやすいまち

健 や か：子どもからお年寄りまで、のびのびと心身ともに健康に暮らせるまち

つ な が り：地域の中でお互いが支え合い、助け合えるまち

誠 実：健全で透明性が高い行政運営で、市民に開かれたまち

元 気：誰もがいきいきと明るく、活気にあふれているまち

挑 戦：誰もが生きがいを持ち、夢や目標に向かって踏み出せるまち

(4) めざすまちの姿

さまざまな年代、性別、職業、居住地の市民を対象としたグループインタビューを実施し、市民が感じている生活実感や思い、どんなまちにしたいか、どんなまちになってほしいかなど、多くの発言を集めました。その後、集まった市民の発言を整理した市民アンケートを実施し、多くの市民が望むめざすまちの姿を37に絞り込みました。さらに、行政が広域的・長期的視点から必要と考えるめざすまちの姿を追加し、合わせて40のめざすまちの姿を目標として設定しました。

安心

- 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない
- 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
- まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
- いじめや自殺、引きこもりがない
- 子どもが良いことと悪いことの区別ができる

快適

- 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである
- 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
- 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している
- 空気がきれいである
- 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティとなっている

健やか

- 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている
- 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢をもつことができている
- 教育や子どもに関する予算が確保され、子どもの教育環境がよい
- 子どもが、ずっと育ってきた豊明を大好きでいる

つながり

- 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている
- 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困っていない
- 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している
- 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている
- 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる
- 行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している
- 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している



誠 実

- 行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている
- 世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている
- 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている
- 市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている
- 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい
- 行政は明確な成果目標を持ち、定期的に達成度を確認し、絶えず改善している

元 気

- 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている
- 子どもが元気に外で遊んでいる
- 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている
- 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている
- 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている

挑 戦

- 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている
- 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている
- 若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている
- 女性が職場や地域で活躍し続けている
- 子どもが夢を持ち、将来グローバルに活躍できる人材に育っている
- すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している
- 若い人たちが地元で働ける
- 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている